

2026年度 学科別授業科目一覧表（実務経験表記あり）

課程：医療専門課程

学科：臨床検査学科

NO.	授業科目	学年	授業時間数	単位	必須・選択	講義・実習	実務経験
59	老年医学	3	15	1	必修	講義	有
60	法医学	3	15	1	必修	講義	有
61	内視鏡総論	3	15	1	必修	講義	有
62	検査管理学	3	45	3	必修	講義	有
63	臨地実習前到達度評価	3	45	1	必修	実習	有
64	病院実習	3	495	11	必修	実習	有
65	生殖医療技術学	3	15	1	必修	講義	有
66	国家試験対策講座	3	240	16	必修	講義	有

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
医療専門課程		臨床検査学科	2026		3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門基礎 必修	講義	老年医学	阿部 俊介	有	1単位 15時間

【授業の到達目標及びテーマ】

日本が直面している超高齢社会より、高齢者に対する専門医療のニーズが高まっている。これを踏まえて、医学的観点より高齢者への理解を深め、実際の臨床業務に生かすことを目標とする。

【講義概要】

高齢者を対象とした医学である。加齢に伴う認知機能・身体の変化を理解し、高齢者に特有な疾患、加齢による検査データへの影響、高齢患者の対応、終末期医療について学習する。

回	授業計画及び学習の内容	
1	授業ガイダンス	高齢者の定義・高齢化社会について・老化のメカニズム
2	高齢者の循環器・呼吸器	加齢変化と主な疾患
3	高齢者の消化器・泌尿器	加齢変化と主な疾患
4	高齢者の造血器・免疫系	加齢変化と主な疾患
5	高齢者の内分泌・運動器	加齢変化と主な疾患
6	高齢者の神経系	加齢変化と主な疾患
7	高齢者の福祉サービス・在宅医療・終末期医療（エンドオブライフケア・延命治療）	
8	試験・解説	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合 (補足)	100%					100%

【教員紹介】

臨床検査技師として浴風会病院で主に心電図検査・心臓超音波検査などの循環器系検査に従事していた。高齢患者や認知症を患う患者に対しても多く接してきた経験より担当する。

【教科書・参考文献】

プリント配布

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
医療専門課程		臨床検査学科	2026		3年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	法医学	松山 永久	有	1単位 15時間

【授業の到達目標及びテーマ】

法医学の定義や死体現象について学び、法医学の基礎を修得することを目標とする。

【講義概要】

死体現象の見方、死因の決定、病死や外因死の推定、個人の識別について学ぶ。

回	授業計画及び学習の内容
1	死体現象の見方(1)
2	死体現象の見方(2)
3	自為か他為か、死因の決定(1)
4	自為か他為か、死因の決定(2)
5	生活に密着した外因死と内因死(1)
6	生活に密着した外因死と内因死(2)
7	個人識別(1)
8	個人識別(2)、試験
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他()	合計
割合 (補足)	90%			10%		100%

【教員紹介】

東京医科大学において、解剖学第一講で12年間、病理学講座で6年間勤務し、臨床検査技師として病理解剖補助の実務に従事していた。

現職：日本保健医療大学 保健医療学部 看護学科 准教授

【教科書・参考文献】

資料配布

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
医療専門課程		臨床検査学科	2026		3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	内視鏡総論	大塚 翔	有	1単位 15時間

【授業の到達目標及びテーマ】

法改正に伴い、検体採取として「内視鏡用鉗子を用いて消化管病変組織の一部を採取する行為」が新たに追加され、これらのニーズに適切に対応できるよう、内視鏡の意義、検査目的や内視鏡の管理を学び、内視鏡における臨床検査技師の役割を理解することを目標とする。

【講義概要】

消化器内視鏡医療の全体像について、広く基礎的な理解を得ることを目的とする。診断および治療における内視鏡の役割を概説するとともに、臨床現場における内視鏡業務の実際を具体的にイメージできるよう配慮する。講義では内視鏡画像や検査動画を用いて視覚的理解を促進し、あわせて実際の内視鏡機器を用いたハンズオン形式の学習を取り入れることで、知識の定着および理解の深化を図る。

回	授業計画及び学習の内容
1	4/24 内視鏡検査の全体像と構造の基礎
2	内視鏡でできることと検査の流れ
3	5/22 上部消化管内視鏡検査と関連する疾患
4	下部消化管内視鏡検査と関連する疾患
5	関連する検査技術（生検・染色・IEE など）
6	6/12 内視鏡治療について（EMR・ESD・止血術 など）
7	膵・胆管領域に対する検査・治療と関連する疾患
8	7/31 感染対策および内視鏡機器のリプロセス（洗浄・消毒）
9	内視鏡検査・治療で使用される薬剤・機器
10	総括
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合 (補足)			50%	50%		100%

【教員紹介】

担当教員は臨床工学技士として医療現場に従事し、2026年4月時点で実務経験10年目を迎える。内視鏡領域には約8年間携わっており、消化器内視鏡技師の資格を有する。臨床のほか、神奈川消化器内視鏡技師会の役員を務める。

【教科書・参考文献】

なし

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
医療専門課程		臨床検査学科		2026		3年 通年															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門	必修	検査管理学		塚田 敏彦	有	3単位 45時間															
【授業の到達目標及びテーマ】																					
医療機関における的確な臨床検査データの提供に際して、検査業務に関わる様々な要素を適切に管理することの重要性を知り、具体的な管理方法を実践できるよう修得する。																					
【講義概要】																					
医療機関における検査部門の業務に付随する様々な事項の管理方法について、系統的に講義する。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1 2	4/8(水) 臨床検査技師の役割と使命、臨床検査の意義																				
3 4	4/9(木) 検査管理の概念、検査部門の組織と業務																				
5 6	4/14(火) 検査部門の管理・運営																				
7 8	4/15(水) 医療安全																				
9 10	4/16(木) 感染対策																				
11 12	4/21(火) 検査の受付～報告、精度管理法(1)																				
13 14	4/22(水) 精度管理法(2)、測定誤差、測定単位																				
15 16	4/23(木) 標準化、試験																				
17 18	4/28(火) 臨床検査室の認証制度(1)																				
19 20	4/30(水) 臨床検査室の認証制度(2)																				
21 22	5/1(金) 健診検査(1)																				
23 24	5/1(金) 健診検査(2)																				
【成績評価方法】																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他 ()</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合 (補足)</td> <td>80%</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計	割合 (補足)	80%			20%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計															
割合 (補足)	80%			20%		100%															
【教員紹介】																					
塚田敏彦：虎の門病院臨床検査部室長、稲田登戸病院臨床検査科技師長として30年の実務経験あり。																					
【教科書・参考文献】																					
【教科書】「最新臨床検査学講座 検査総合管理学」(医歯薬出版)																					

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象
医療専門課程		臨床検査学科	2026	3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験
専門 必修	実習	臨地実習前到達度評価	学科教員全員	有
				単位・時間数
				1単位 45時間

【授業の到達目標及びテーマ】

病院実習前の総合教育として、臨床検査の知識とその応用である検査手技を再確認して定着させる。医療人として適切な身だしなみや患者接遇について再確認する。

【講義概要】

身だしなみや接遇の評価を含む実技評価試験を実施し、不合格者に対して評価をフィードバックして再指導後、合格するまで再試験を実施する。

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	
3	【個人レベルの実技評価試験】
4	①血液検査-----血球塗抹標本作成と鏡検（身だしなみ・手指衛生・微量ピペット操作・顕微鏡の調製を含む） 標本の観察と判定
5	②微生物検査-----Gram 染色と菌種の判別（身だしなみ・手指衛生・顕微鏡の調製を含む）
6	③生理機能検査---標準12誘導心電図検査（身だしなみ・接遇含む）
7	【技能到達度確認科目】
8	・血液検査（大田和・北山）-----塗抹標本における白血球の分類・同定
9	・病理検査（山木）-----HE 染色・病理標本の観察・判定
10	・臨床化学検査（大田和・北山）---採血法
11	・輸血検査（新井）-----血液型判定（ABO・RhD）
12	・微生物検査（須崎）-----同定検査・薬剤感受性検査
13	・生理機能検査（荒井）-----肺機能検査
14	・生理機能検査（阿部）-----心電図波形の計測・判読
15	【再確認事項】
	・医療人としてのマナーおよび患者接遇（新井）

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	100%					100%
(補足)						

【教員紹介】

病院検査部での実務経験あり：塚田敏彦、新井智子、北山茂、大田和伸裕、山木久美、荒井健一、阿部俊介
検査センターでの実務系経験あり：近藤哲平

【教科書・参考文献】

【教科書】最新臨床検査学講座 各教科（医歯薬出版）
【参考書】臨床検査臨地実習マニュアル（医歯薬出版）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象
医療専門課程		臨床検査学科	2026	3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験
専門 必修	実習	病院実習	北山/荒井 病院検査技師	有
単位・時間数				
11単位 495時間				

【授業の到達目標及びテーマ】

臨地実習では学内実習で教授できない検体採取、検体の処理、検体の保存等を実践し習得することを目標とする。また、医療人として基本的なマナーや患者接遇を身に付ける。

【講義概要】

学内で修得した知識や検査技術を用いて病院検査科・部で実習を実施する。臨床の場で患者や病院職員とのコミュニケーションを取り、検査技術の習得や検査に取り組む姿勢（責任・倫理）・態度を学ぶ。

回	授業計画及び学習の内容
55日	臨床検査総論：尿、便の検査・穿刺液検査・寄生虫検査・採血法
	生理機能検査：心機能・肺機能・神経機能・その他の生理機能検査
	生化学検査：検体の取り扱い・自動分析装置・血中薬物濃度・精度管理法
	病理検査：病理標本作製・鏡検・細胞診・病理解剖
	血液検査：自動血球分析装置・血液凝固自動分析装置・血球形態検査（血液像）・凝固・線溶系検査
	微生物検査：検査材料と主要な起炎菌・培地の選択と培養方法・薬剤感受性試験・感染症の遺伝子検査
	免疫検査：免疫学的測定法・感染症関連検査・輸血検査
	その他： ① 学校で学んだ知識の確認、検査技術の習得
	② 検査業務の流れと検査の必要性や重要性
	③ 検体の採取から保存までの管理と検体の重要性
④ 検体結果に基づく総合判断、検査データの管理と精度管理などの検査管理技術の理解	
⑤ 医療廃棄物の処理や感染事故対策、医療安全対策	
⑥ 患者心理の理解とマナー、接遇	
⑦ 医療体系や病院運営体系の理解	
⑧ チーム医療の一員として臨床検査技師の役割と責任	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（実習病院の評価）	合計
割合	約40%				約60%	100%

（補足）

【教員紹介】

各実習病院において、検査部で実務に携わっている臨床検査技師が指導を行う。

【教科書・参考文献】

【教科書】臨地実習ノート（医歯薬出版）

【参考書】臨床検査臨地実習マニュアル（医歯薬出版）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象
医療専門課程		臨床検査学科	2026	3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験
独自科目 必修	講義	生殖医療技術学	藤田 健太郎	有
単位・時間数				
1単位 15時間				

【授業の到達目標及びテーマ】

不妊治療の基礎知識を学び、実際に卵子操作や顕微授精装置 (ICSI) の機器操作 に触れることによって、エンブリオロジスト胚培養士の必要性和仕事内容を理解することを目標とする。

【講義概要】

不妊治療の現状と生殖補助医療(体外受精 顕微授精 凍結胚を用いた治療)の方法と変遷について学ぶ。顕微授精装置 (ICSI) の基礎知識を学び、実際にマニピュレーター にて精子の 吸引・排出操作、マウス卵子を用いて卵子への穿刺操作を行う。

授業計画及び学習の内容

1	生殖補助医療概論①
2	生殖補助医療概論②
3	生殖補助医療概論③
4	エンブリオロジスト(胚培養士)の業務について
5	エンブリオロジストの基礎基本操作①
6	エンブリオロジストの基礎基本操作②
7	顕微授精装置(ICSI)マニピュレーターの精子の不動化処理
8	顕微授精操作(卵子細胞質内へ精子を注入)
9	
10	講義4回 (1~4)
11	実習4回 (5~8)
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合 (補足)			50%	50%		100%

【教員紹介】

卵子や精子の受精および受精卵の培養を専門とする胚培養士として10年以上の実績を持つ。臨床業務に加え、過去には大学院教員として胚培養士の教育に携わり、現在は所属施設やワークショップ等で胚培養士の技術指導を行う。専門的知識と実務経験を生かし、次世代の胚培養士育成に注力している。

【教科書・参考文献】

教科書なし。 教員作成資料を配布する。

